

## はじめに —復興とは何か—

中林一樹

(明治大学 復興・危機管理研究所 客員研究員／東京都立大学 名誉教授)

日本災害復興学会にとって、「復興とは何か」はその存立課題であった。学会設立に向けての趣旨を「……、私たちは簡単に「災害からの復旧・復興」と口にしますが、「復興」についての定義すら定かでないのです。……、孤独死、二重ローン、震災障害者、県外避難、関連死……。震災は悲しい言葉をたくさん生み落としました。しかし、……地震保険、災害弔慰金法、…被災地の叫びが実現させた被災者生活再建支援法と先人たちの知恵と努力で結実した支援の仕組みもわずかながら存在します。首都直下地震、東海・東南海・南海地震という巨大地震の発生を前にいま、私たちは被災地の教訓を共有し、教訓を紡ぎだして制度とし、社会の枠組みを捉えなおす作業をはじめなければなりません。……」とし、日本災害復興学会は設立された。

学会設立当初から「復興とは何かを考える委員会」が常設された。その目的は「今後の災害復興の議論をより豊かにかつ生産的なものにするために、復興の概念あるいはあるべき復興について、これまでに出了れた主要な論点や、共通認識および主要な対立点などを整理することによって、今後の議論の土台としての共通理解を形成すること」として公開研究会を進めてきた。が、2011年3月に東日本大震災が発生し、中断した。

2015年、本学会は日本学術会議から「日本学術会議協力学術研究団体」に指定された。その申請書には「被災者、被災地にとってより良い災害復興の実現を目指して、災害復興学の確立と研究の向上に努めるとともに、被災体験の継承・被災地支援の交流をはかり、被災地の再建、被災者の再起に資する」ことを目的とする学術活動団体とした。

2018年、「復興とは何かを考える委員会」は学会設立10周年記念事業として改めて設置され、これまでの成果とともに海外の災害復興にも目を向けて議論を進めた。

本特集「復興とは何か」とは、このような経緯の中で、本学会の設立目的に向かった研究活動成果の第一歩として企画したものである。委員会での研究成果の一環としての取りまとめていただいた論考に、招待論文と投稿論文を加えて、校正した。今後の復興学の真の発展と、災害多発の時代に各地で取り込まれる災害復興が「被災者に笑顔を、被災地に活力を」取り戻すことができる復興となることを祈念している。